

2 年 後 の 大 教 会 長 交 代 を 発 表

立 教 1 8 4 年 6 月 2 0 日 に 会 長 就 任 奉 告 祭



発 行
天 理 教 本 愛 大 教 会

〒 4 5 3 - 0 8 2 1
名 古 屋 市 中 村 区 大 宮 町 1 - 6 0
TEL (0 5 2) 4 6 1 - 4 3 2 6
FAX (0 5 2) 4 6 1 - 4 3 2 0
〒 6 3 2 - 0 0 7 1
奈 良 県 天 理 市 田 井 庄 町 1 9 - 1
TEL (0 7 4 3) 6 2 - 0 3 7 8
編 集 責 任 広 報 部

10 月 1 3 日、大 教 会 の 秋 季 大 祭 が 厳 か に 勤 め ら れ た。

大 祭 の お つ と め 終 了 後、挨 拶 に 立 っ た 大 教 会 長 か ら、2 年 後 の 立 教 1 8 4 年 に 大 教 会 長 を 交 代 す る 旨 が 発 表 さ れ た。

後 継 者 の 安 藤 吉 人 氏 が、立 教 1 8 4 年 3 月 2 6 日 の お 運 び で 理 の お 許 し を 頂 き、6 月 2 0 日 に 6 代 会 長 就 任 奉 告 祭 が 執 行 行 わ れ る。

台 風 一 過、10 月 1 3 日、大 教 会 の 秋 季 大 祭、当 日 に は 爽 や か な 秋 空 が 広 が り、晴 天 の ご 守 護 の も と、祭 典 が 執 行 行 わ れ た。陽 気 に 勇

い ん で 勤 め ら れ た お つ と め の 後、挨 拶 に 立 っ た 大 教 会 長 は、「皆 様 に 重 要 な、重 大 な ご 連 絡 が ご ざ い ま す」と し て、再 来 年、立 教 1 8 4 年 に 後 継 者 の 安 藤 吉 人 氏 に 会 長 の 理 を 譲 る 旨 を 発 表 し た。

大 教 会 長 は、本 年 2 月 頃 か ら 数 度、真 柱 様 の も と を 訪 ね、5 年 後 に 迎 え る 大 教 会 創 立 1 1 0 周 年 を、自 身 が 会 長 と し て 迎 え る べ き か、後

立 教 1 8 2 年 活 動 目 標

- 「報 告 の 美 事」
- 初 参 拜 の 推 進 と 新 よ う ぼ く の 丹 精
- 報 恩 感 謝 の お つ く し の 徹 底
- 若 者 に ご 恩 報 じ の 心 を 伝 え よ う
- ◎ 一 名 称 本 年 まで 三 人 の 修 養 科 生 を 守 護 頂 上
- ◎ 報 恩 感 謝 別 席 団 参 の 実 施 (1 1 月 2 4 日)

継 者 に 後 を 譲 る べ き か 相 談 を 重 ね て き た。

そ の 結 果、真 柱 様 か ら 2 年 後 の 会 長 交 代 の お 許 し を 頂 き、立 教 1 8 4 (令 和 3) 年 3 月 2 6 日 に お 運 び を 行 い、6 月 2 0 日 (日) に 6 代 会 長 就 任 奉 告 祭 を つ と め さ せ て い た だ く 運 び と な っ た。

さ ら に 大 教 会 長 は、「い よ い よ 本 愛 は、来 年 か ら 再 来 年 まで 6 代 会 長 就 任 奉 告 祭 活 動 を 進 め て い く こ と に な ろ う か と 思 い ま す」と し て、「本 愛 の 道 は、記 念 祭、ま た 奉 告 祭、一 回 一 回 の そ う し た ふ し を 契 機 と し て、伸 び て き た 道 で あ り ま す。身 上 ・ 事 情 に 代 わ る 生 き 節 と し て の 記 念 祭、ま た 奉 告 祭。そ れ で 本 愛 に つ な が る 一 人 ひ と り が 素 晴 ら し い ご 守 護

を 頂 戴 し て、作 り 上 げ て き た 道 で あ り ま す」と 話 し た。

そ し て「ど う か 再 来 年 の 奉 告 祭 に 向 か っ て、ま ず は、今 年 残 さ れ ま し た 1 1 月 2 4 日 の 報 恩 感 謝 別 席 団 参、そ れ に 全 精 力 を 傾 注 す る こ と に よ っ て、私 た ち の 今 後 の 道 の 第 一 歩 に さ せ て い た だ き たい」と の 思 い を 述 べ た。

引 き 続 い て 講 話 に 立 た れ た 世 話 人 ・ 松 村 先 生 は、前 真 柱 様 が お 道 を 通 る こ と を 駅 伝 に 例 え ら れ た お 話 を 紹介 さ れ、「タ ス キ を 渡 す ま で の 間、ど う 走 る の か と い う こ と が 大 事 な こ と」と 話 さ れ た。そ し て 奉 告 祭 を 目指 し て、本 愛 の 教 信 者 が こ れ か ら の 2 年 間 を ど の よ う に 通 る か を 考 え、こ の 旬 を 生 か し て い く よ う に と 要望 さ れ た。

2 年 後 の 奉 告 祭 を 晴 れ や か な 心 で 迎 え さ せ て い た だ く た め に も、こ の 旬 に 本 愛 教 信 者 全 員 が 勇 ん で 歩 ま せ て い た だ き たい。

11 月 の こ よ み	
入 社 祭	1 日 午 前 1 0 時
祭 典 後、教 会 長 連 絡 会	
よ ふ き 会 例 会	2 日 午 前 1 0 時
第 2 9 回 女 子 青 年 大 会	3 日 午 前 1 0 時
学 生 会 十 三 峠 越	9 ~ 1 0 日
月 次 祭	1 3 日 午 前 1 0 時
布 教 実 修 所	1 4 日 午 前 9 時 3 0 分
む つ み 会 例 会	1 6 日 午 前 1 0 時
こ は る 会 例 会	1 6 日 午 前 1 0 時
本 愛 こ ど も 会	1 7 日 午 前 1 0 時
婦 人 会 例 会	2 0 日 午 前 1 0 時
雅 楽 勉 強 会	2 2 日 午 前 1 0 時
報 恩 感 謝 別 席 団 参	2 4 日
本 部 月 次 祭	2 6 日 午 前 9 時
青 年 会 例 会	3 0 日 午 前 1 0 時

道の後継者の集い(9月22日) 記念講演要旨



吉川孝之氏

㈱マナベル代表取締役
(教会本部ようぼく)

私は45年前天理で生まれ、天理幼稚園から天理高校までおちばで育てていただき、その後建築士を志して大阪の会社でお世話になりました。しかし途中で建築士になることを断念し、それから数年は、自分の進むべき道を模索して迷走する日々でした。そのとき父に、「自分はやはり、おちばに帰らせていただいた方がいいのか」と訊ねたところ、「世間で通用しない者は、おちばでも通用しない。おちばは必要な者が必要なきときに、自然と引き寄せられるところ」と教えられ、自身の心の甘さと弱さを強

烈に痛感しました。

そんなときに出会ったのが「人材育成」の世界でした。そこでまず、自身の「心の在り方」を見つめ直し、そして多くの経験と学びを得ました。そして36歳のときに自身の会社を起業し、それ以来講演活動や企業の人材育成の分野に携わり、今年で10年になります。現在は年間170日ほどですが、全国各地の自治体や企業などからお声がけをいただいております。

教えはすべての「原理原則」

起業してから間もなく、多くの人から「吉川くんの

話は、何が元になっているの？」と尋ねられるようになりまし。私は自分の中に大切にしている考えや経験を、単に話していただけのつもりでしたが、その質問で「お道の教えが自分の考えと経験談の“芯”になっている」ということに気がきました。

言い換えれば、私の話は、「教語」を使わずにお道の教えを噛み砕いて、私の経験談と共に伝えていただけだったので。それが一般の企業や多くの人の心に響いていたことで、改めてお道の教えの凄さに気付かされました。

スポーツや芸術と同様に、社会で活躍するために、社会で活躍するために、自己流で取り組んでも上手いきません。例えば仕事でも、上司のアドバイスを無視して「自己流」で行う人と、先輩方からのアドバイスを踏まえた上で行う

人とは、どちらが活躍するかは言うまでもないでしょう。また、自己流で取り組んだ人は「私なりに頑張ったのに」という「自分本位」な気持ち湧き出ます。しかし仕事は「相手本位」に考えて要望や想いを満足させないと仕事にはならず、当然お金を頂くことはできません。これが社会の中で働く上での「原理原則」です。

お道の教えは、社会で働く上での「原理原則」についても、分かりやすく説いてくださっています。ではそのことを順にお伝え致します。

自分を変えると上手くいく
まず、信仰の有無に関わらず、会社や学校での人間関係から子育てに至るまで、人材育成やコミュニケーションにおいて絶対的に持つてはいけないのが「相手を変える」という考え方

です。これだと上手くいかないことを相手や周りの責任にする「他責」の意識が湧き出てきます。他責では自分が全く成長しないので、自身の「思考と行為」に目を向けて反省点を探す「自責」に切り替えてみましょう。そうすることで自身の変化や成長が促されます。これが育成やコミュニケーションの原理原則です。

例えば、新人3人に掃除の指示を出したとします。一人は言われた通りやっているが、残り2人はできていない場合、上手くいかないことをその2人のせいにする「他責」にしてしまいがちです。しかし人材育成では、「2人の特性を分かっていなかった自分の伝え方に問題があったかも」と「自責」で考えて、相手よりもまず自身を変化させることで、相手の意欲をかき立て、自身の育成力

向上を促します。

身上や事情をお見せいただいたとき、一般的には「何でこんなことに」と思ったり、他人や環境のせいにしてがちですが、教祖は「自分のこれまでの心づかいや行いにまずは目を向ける」と教えてくださっています。

さらに、「相手を変える」という考えは「自分本位」な心を生み出してしまいます。

これはおたすけの現場でも、身上や事情を抱えた相手を変えようと思うあまり、良かれと思つて毎日通う。もしかしたら相手は「少し一人になりたい」と感じているかもしれない。どんな場面でも、自分本位になつていないか点検する必要がある。

「私なりに頑張つたのに」。そう言う人はどの世界にもたくさんいます。しかし、それは社会で働く上で絶対に口にしてはいけない、自

分本位な言葉です。自分の「思考と行為」が、原理原則を無視した「自己流」になつていないか、たまに振り返り、改善していくことが最も大切だと思います。

直接変えられるモノに注目

次に私が、あるアメリカの心理学者の話聞いて、「なるほど!」と感じた原理原則についてお話しします。このお話は「幸せは自分でコントロールできる」という話です。

まず、人生を車に例えてみましょう。その車は一人乗りで前には進みますがバックはできません。つまり未来は変えられませんが過去は変えられないということです。そして皆、自分の望む未来にハンドルを切つていくはず。そしてハンドルによつて直接動かせる前輪は「思考と行為」、動かせない後輪は「感情と生理反応」と言えます。

例えば「陽気になれる」と

言われても自分で陽気な感情を湧き出すことはできませんし、疲れという生理反応はどうしようもありません。しかし、楽しい「思考」で陽気という「感情」が変わり、寝るという「行為」で疲れという「生理反応」を変えることはできません。

つまり、「感情と生理反応」は直接変えられないけれど「思考と行為」を変えることで間接的に変えることができるといえます。付け加えるならば、「他人」

や「環境」も直接変えることはできません。要するに、自分では直接変えられないモノに心を奪われてハンドルを切つてしまうと、「幸せ」というゴールとは別の方向に人生のハンドルを切つてしまうことになるのです。

1 つ目は「自分の心を陽気な感情に、直接変えることはできなかつたんだ」ということです。

私はそれまで、「辛いときこそ陽気に勇んでいなければ」とばかり考えていました。しかし、感情は直接変えることはできないから、陽気になれるように思考と行為を変えれば良い。

2 つ目は「お道の教えには思考を変えるノウハウがギッシリ詰まっている」ということです。

みかぐらうたに、ひとがなにごといはうとも かみがみているきをしずめ (四下り目一ツ) とあります。これが単に「ひとがなにごといはうとも、きをしずめ」だったなら、感情は直接変えることはできないので、ほぼ不可能です。しかし私たちは「神様が見ている」という「思考」を変えることで「感情」という気を鎮めることができ

るのです。私たちは既に教祖から「思考」の変え方を教えていただいていたのです。

「思考」だけでなく、ひのきしんや参拝という「行為」も、自分の「感情」を変える方法の一つです。例えば、心がしんどいときこそ神殿に足を運んでみる、ひのきしんをするなど、「行為」を変えてみる。そうしたことで自身を陽気という「感情」に変えることができます。

私たちは難しい心理学を学ばなくとも、既に教祖から教わっている「教えと実践方法」があります。これを、皆がそれぞれの職場や世界で実践することこそ「陽気ぐらしの実践」であり、にをいがけになると私は信じています。

これからも私は、一般社会で教えの実践に取り組んでいきます。

(文責・広報部)

教理随想

言わん言えんの理を探る



大和は国のまほろば たたなづく青垣山ごもれる大和しうるはし

*

日本最古の歴史書・古事記の中で歌われるこ

の有名な歌は、ヤマトタケルノミコトがその生涯を閉じようとする時に大和への望郷の思いを詠んだとされるもので、大和地方の美しさを端的に表現する歌として今も語り継がれています。

悠久の歴史を感じさせる景色の中で、秋の深まりと共にこれから色づき始める大和の木々。四方を山に囲

まれた奈良盆地の中でも親里ちばを中心とする天理市周辺は、時代の移り変わりと共に家が建ち並んで街の様子は一変しましたが、少し郊外に出ればまだまだ古代の風景に巡り会える素晴らしい場所です。

その大和の一農村に住む主婦、中山みき様に親神様が天降られて人間の本当の親の存在を明かされ、よろづ委細の真実の話を説き明かされたのが今から百八十一年前、天保九(一八三八)年十月のことでした。以来教祖は、親神様の思召のままにひながたの道を歩まれ、私たちに陽気ぐらしへの道筋をお示しくださいましたが、その中でも人類創造の地「ちば」

を明らかにしてくだされたことは、私たち人間にとって実に有り難いことだと言わねばなりません。

もし私たちが自分の生まれ故郷を知らず、産んでくれた両親も分からないとすれば、これほど不幸で寂しいことはないでしょう。けれどもよく考えてみれば、自分の故郷や両親を知っているという人でも、自分が生まれた時の記憶を持っていない人は一人もありません。ではなぜ生まれ故郷や両親が分かるのか。それは親から教えてもらったことを無条件に信じているからです。

親を信じる。人間としての幸せは、すべてここから始まると言っても過言で

はありません。自分の両親はもろろんのこと、その親さらにそのまた親、さらにまた…と遡っていった一番最初の両親が月日親神様であり、その母親の魂をお持ちの方が教祖であります。そして産まれた子供が親の深い愛情によって成長し、自らの人生を切り拓いて行く姿を最も喜んでくれるのもまた親であります。

■誠実が宝

教祖は「月日のやしろ」として、明治二十年正月までお姿をもって親神様の思いを説き続けられました。が、現身を隠されたあとは「ちば」という永久に動くことのない場所に「天理王命」の神名を授け、全人類が親を慕って「ちば」へ帰ることの大切さを教えてくださいました。つまりおちばがえりこそ私たちの最も肝心な親孝行の行いであり、ちばへ心を運ぶ誠実が、生

涯変わらぬ宝となつて本当の幸せへと導かれて行く。これがこの世の天理天則であります。おふでさきに、月日にわせかいどううをみハたせど もとはじまりをしりたものなし (十三一三〇)

このもとをどふぞせかいへをしへたさ そこで月日があらわれてゝた (十三一三一)

と教えられます。親神様はすべての人間が幸せになるために、人間創造の元初まりの真実を教えてやりたいと願っておられる。その思いを深く悟つて、自分の周囲の人々をおちばへ導くことがようぼくの最も大切な使命であります。

親への孝心と人々のたすかり、そして陽気ぐらし世界の到来を祈つて、十一月二十四日の「報恩感謝別席団参」には大勢の人々と共におちばへ帰らせていただくようではありませんか。

【第59回】 親を信じ、親孝心の思い深めて 一手一つにおちばがえりを

元大教会世話人・山田忠一先生がお出直し

昭和55年より平成10年まで大教会の世話人をおつとめいただいた、本部長・山田忠一先生が、9月20日、90歳でお出直しなられた。

さらに平成5年の創立80周年記念祭・上段修築奉告祭・五代会長就任奉告祭では、指図方をお務めくださった。

世話人在任中には、現大教会長結婚の際、媒酌人を、また昭和57年の創立70周年記念祭をはじめ、2代・3代会長の年祭や「華洲館」の竣工式において祭主をおつとめいた

山田先生には大教会のさまざまな節目と、教祖100年祭、教祖110年祭という全教にとって大事な時句に、本愛教信者に力強く成人の道を歩むよう心を尽くしていただいた。

本愛布教推進週間を実施

別席団参に向け布教に励む
本愛大教会では昨年引き続き、10月14日から20日までを「本愛布教推進週間」と定め、布教活動を展開。毎日午後1時に大教会に集合。おつとめを勤め、布教地にて実動に励んだ。
また今回、16日には神殿でおはなし会も行われ、布

委員部長後継者講習会

婦人会本愛支部では、10月16日、むつみ会を対象に「委員部長後継者講習会」を開催した。
午前10時、神殿でおつとめを勤めた後、会議室で安藤くみ子・本愛支部長が挨拶。続いて「命のはなし」

立教百八十二年 秋季大祭 祭典役割

令和元年十月十三日

祭主		祭典		指図		賛助		開扉	
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
教	教	教	教	教	教	教	教	教	教
会	会	会	会	会	会	会	会	会	会
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
安藤									
正二									
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
中島									
裕信									

の講座DVDを鑑賞した。
午後からは、大教会の布教推進週間に参加し、布教活動に励んだ。

「名古屋まつり」
郷土英傑行列に出演
10月19、20日の両日、「第65回名古屋まつり」が行われ、実施となった。

ハイタイム

先日、今年一番の興奮と感動を味わった。ラグビーワールドカップで、日本チームが並み居る強豪を打ち負かし、日本史上初のベスト8に進出。一緒にテレビで試合を観戦していた妻とは、抱き合って喜びを分かち合った▼今回、日本チームがベスト8に進めたのは、もちろん選手らの努力もあるが、指導をする監督やコーチ、周りを支えるサポーターや応援をする人たち、そういった人たちのお蔭で勝ち取った勝利だと感じる。まさに「一人はみんなの為に、みんなは勝利の為に」である▼残念ながら日本チームはベスト8で敗退したが、日本中が感動に包まれた大会となった。選手らを賞賛すると共に、自分も人々を感動させられるような人になりたいと、改めて思った。

- 修養科生教養掛
- 第939期
- 7月 杉村 善男(本岩塚)
- 大倉 喜香(本一心)
- 8月 塚原 光男(本千原)
- 渡邊 充子(本築地)
- 9月 大橋新一郎(本愛中)
- 水野はつよ(本正徳)
- 右の各氏が教養掛を務めた。
- 修養科第939期修了者
- 本定 太田 藤雄
- 本西部 長尾 千紘
- 以上2名
- 9月のおさづけの理拝戴者
- 本定 太田 藤雄
- 以上1名
- 9月の初席者
- 本心(本心徳)
- アナリン・マルティン
- 〃(〃)
- ジョネビブ・アグスティン

若いお父さん・お母さんへ

家族ぐるみで

教会へ参拝しましょう

婦人会・青年会・少年会からの提唱



本心(本心徳)

ジュンシイ・ジョイ

・サラリラ

〃(〃)

マリリン・レローナ

本海部(本海門)

高橋ジェニファー・ジョイ

本愛濃

宮田ひとみ

向山 杏

以上7名

本春明

大教会日誌

令和元年9月25日～令和元年10月24日

9月

- 25日 修養科志願者面接 (於・本愛詰所) 指図方・板山公司 賛者・坂倉敏男、中島裕信
- 26日 本部月次祭 ◇大教会長挨拶
- 28日 全教一斉にをいがけデー (30日まで) ◇祭典講話—本部員・高安大教会長
- 29日 ほんあいOK E I K O 松村義司先生
- 30日 常任役員会議◇役員会議 青年会例会

10月

- 1日 入社祭 女子青年例会
- 祭主・大教会長 扨者・都築隆道、吉田克義 おつとめ、教理講座、布教実動、ふり返り
- 指図方・板山公司 賛者・塚原光男、久保眞樹 本愛布教推進週間 (20日まで)
- ◇おたすけ講話—水野和好 16日 婦人会委員部長後継者講習会
- ◇教会長連絡会 おはなし会
- 2日 よふき会例会 17日 こども食堂MOGU (参加者66人)
- おつとめ・十二下りてをどり、会食 19日 本愛鼓笛バンド・本築鼓笛隊
- 12日 常任役員会議 名古屋まつりに出演 (20日まで)
- こはる会例会 20日 婦人会例会
- 13日 秋季大祭 23日 おはなし会
- 祭主・大教会長 扨者・出口道男、安藤正二郎 24日 本愛ようぼく錬成会